



# 神戸の短大生

ら 住民の「ここ」で被災画像を見る学生

# 豊野のぬくぬく亭を訪問

# 住民に被害・復興聞く

住民側は、豊野西小の避難所が満員で入れなかつた経験などを説明。「車で一夜をしおげるような駐車場が必要」「市の指定避難所以外には支援物資がなかなか届かない」といった課題を伝え

本彩乃さん（21）、外  
種子田千寛（ほかた  
ねだ。ちひろ）さん  
(19)、山口華永（はな  
え）さん（20）。住民  
側はボランティア団体  
「昔の遊びつなぎ会・  
遊び隊」のメンバー  
やぬくぬく亭の関係者  
ら10人ほどが参加し  
た。

## 頌栄短期大学学生が活躍

頌栄短期大学が加盟している一般社団法人

「大学コンソーシアムひょうご神戸」2021年度  
学生災害ボランティアネットワーク事業の一環として、頌栄短期大学専攻科生・保育科生の3名が長野県で発生した台風による大規模災害被災地を訪れた。当時の被害や避難状況など現地で調査を行い、地元のボランティア団体と交流を通して災害について学ぶ様子が長野市民新聞に掲載された。

更に、1月23日(日)長野方面、宮城方面、岡山方面、熊本方面で、支援活動や災害調査、現地での災害について学んだ学生の報告会と災害に関する講演会がオンラインで行われ、神戸新聞に掲載された。

尚、本学の専攻科1年生の森本彩乃さんがこの会の進行役を務め、保育科2年生の外種子田千寛さん、山口華永さんが現地活動の報告を行った。

豊野地区の交流拠点「あゆの縁側ぬくぬく亭」に7日、大規模災害被災地の支援活動に参加している頃栄（しょうえい）短期大学（神戸市）の学生3人が訪れ、地元住民と交流した。19（令和元）年台風19号災害の被害や復興の状況を聞き、防災の心構えについて考えた。

3人は保育を学ぶ森本彩乃さん（21）、外狸子田千寛（ほかたねこ）、山口華永（はなこ）さんだ。イベントなどで子供たちに教えているお手玉（おはじき）などの遊びも伝授。3人も挑戦して盛り上がった。イベントなどで教えることになる「アシアムひょうたん」の事業の一環として、訪問は、兵庫県内の大学や短大などが加盟する組織「大学」の事業である。年度は学生約30人。全国4カ所の被災

分かれて交流しておられ、このうち7人が「風19号被災地の長沼、豊野地区と昨年10月からオンラインで親交を深めてきた。3人は6日に長沼地区も訪問し、消防団関係者と交流した。

東日本大震災で津波に襲われた宮城県名取市や西日本豪雨に見舞われた岡山県倉敷市など、全国4カ所の被災者らと交流しながらコロナ禍での災害ボランティアについて模索してきた県内の学生約30人の報告会が

23日、オンラインで開かれた写真。23日、オンラインで開かれ

た写真。

県内の大学・短大が加盟する一般社団法人「大学コンソーシアムひょうご神戸」などによる「2021年度学生災害ボランティア・ネットワーク事業」の一

## 全国4カ所の被災者らと交流

# 県内学生 支援活動を報告



### ■オンラインで30人

長野チームは地元の消防団から聞いた教訓をもとに、神戸の小学生に防災授業を行つたことや、分団長らを招いた防災・減災講演会を企画したと説明した。長野を訪れた短大2年の山口華永さん(20)は、「福崎町」は「災害への具体的な備えを学べたし、チームで一つの目標に向かうやりがいを感じられた」と笑顔だつた。

(名倉あかり)

環。学生らは4チームに分かれ、宮城、岡山のほか、19年の台風19号で被災した長野市、地震と水害が相次いだ熊本県の支援に取り組んだ。

岡山チームは被害の風化を防ぐため、「真備災害すごろく」を作成していると報告した。現地の高校生や浸水で傷んだ写真を洗浄する団体を取材し、「友人が被災した時、いつ連絡をどうする?」といったコマを考案。特産のタケノコなどのリストをあしらつた図案を披露した。